

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第1区分

【発行日】平成19年7月26日(2007.7.26)

【公開番号】特開2007-76999(P2007-76999A)

【公開日】平成19年3月29日(2007.3.29)

【年通号数】公開・登録公報2007-012

【出願番号】特願2006-54663(P2006-54663)

【国際特許分類】

|         |       |           |
|---------|-------|-----------|
| C 0 3 C | 17/32 | (2006.01) |
| B 6 0 J | 1/00  | (2006.01) |
| B 3 2 B | 27/40 | (2006.01) |
| B 3 2 B | 27/18 | (2006.01) |
| B 3 2 B | 17/10 | (2006.01) |
| C 0 9 K | 3/00  | (2006.01) |
| C 0 9 K | 3/18  | (2006.01) |

【F I】

|         |       |   |
|---------|-------|---|
| C 0 3 C | 17/32 | A |
| B 6 0 J | 1/00  | G |
| B 3 2 B | 27/40 |   |
| B 3 2 B | 27/18 | C |
| B 3 2 B | 17/10 |   |
| C 0 9 K | 3/00  | R |
| C 0 9 K | 3/18  |   |

【手続補正書】

【提出日】平成19年6月12日(2007.6.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

透明基材上に形成される防曇性被膜であって、該被膜は吸水率が20~40重量%のウレタン樹脂よりなり、該ウレタン樹脂は、平均分子量1000~4000のアクリルポリオール、及び平均分子量400~500のポリオキシアルキレン系ポリオールより誘導されてなるものであることを特徴とする防曇性被膜。

【請求項2】

ポリオキシアルキレン系ポリオールが、平均分子量が400~2000のポリエチレンゴリコールであることを特徴とする請求項1に記載の防曇性被膜。

【請求項3】

前記樹脂がさらに架橋単位としてジメチルシロキサンユニット( $\text{Si}(\text{CH}_3)_2\text{O}$ )の数が5~300である直鎖状ポリジメチルシロキサンを有することを特徴とする請求項1又は請求項2に記載の防曇性被膜。

【請求項4】

「JIS K 7125」に準拠して得られる被膜の静摩擦係数が、被膜が吸水していない状態で0.8以下、吸水飽和状態で0.9以下であることを特徴とする請求項1乃至請求項3のいずれかに記載の防曇性被膜。

【請求項5】

被膜の膜厚が5～50μmであることを特徴とする請求項1乃至請求項4のいずれかに記載の防曇性被膜。

【請求項6】

請求項1乃至請求項5のいずれかに記載の被膜と透明基材とでなる防曇性物品。

【請求項7】

防曇性被膜を形成するための塗布剤であり、該塗布剤はイソシアネート基を有するイソシアネート成分を有する塗布剤A、ポリオール成分を有する塗布剤Bとからなる2液硬化型の塗布剤よりなり、該ポリオール成分は、アクリルポリオール、ポリオキシアルキレン系ポリオールを有することを特徴とする塗布剤。

【請求項8】

ポリオキシアルキレン系ポリオールが、ポリエチレングリコールであることを特徴とする請求項7に記載の塗布剤。

【請求項9】

重量比でポリエチレングリコール：アクリルポリオール=50:50～70:30であることを特徴とする請求項7に記載の塗布剤。

【請求項10】

透明基材に請求項7乃至9のいずれかに記載の塗布剤を塗布し硬化させることを特徴とする防曇性被膜の製造方法。

【請求項11】

請求項1乃至5のいずれかに記載の防曇性被膜を、被膜の吸水飽和後に強制的に被膜から脱水させる機構を有する室内環境で使用し、防曇性発現時に水膜を形成しないことを特徴とする透明基材の視界を確保する方法。

【請求項12】

被膜の吸水飽和後に強制的に被膜から脱水させる機構を有する室内環境が自動車の室内であることを特徴とする請求項11に記載の透明基材の視界を確保する方法。

【請求項13】

請求項1乃至5のいずれかに記載の防曇性被膜を冷凍庫内に保持し、該被膜を常温にもたらしたときに被膜に曇りを発生させないことで透明基材の視界を確保する方法。